総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第２５期・第 12 回議事要旨

令和 5 年 2 月 15 日
作成　山本　章夫

１．日時　令和 5 年 2 月 15 日（水）10:00～11:30
２．会場　遠隔会議　オンライン開催
３．出席者　松岡委員長、越塚副委員長、小野、関村、矢川、白鳥、宮野、山本、澤田（佐倉、吉村、中村欠席）
４．　配付資料
　資料１　前回議事録
　資料２　報告書改訂案
　資料３　申出書
　参考　　前回議事メモ

５．議事
１）議事録確認（資料１）
◎議事録を確認した。コメントなく了承された。

２）申出書（資料３）
◎申出書を提出し、手続きが進んでいることが紹介された。

３）報告書改訂案の審議
◎資料２の改訂部分を中心に議論を行った。
〇　今後のスケジュール感
・3 月末頃までに報告書を取りまとめ、事務局に提出。その後査読があり、それに対してコメント対応する。
〇　要旨
・報告書の内容を finalize した後、それに基づいて要旨、提言、まとめを作成していく方向性。
・新知見を取り込む形で、イノベーションを実施する必要があることを明確にする。
・原子力では「新規知見」と言う言葉になじみがないと言うより、これまで小委員会で議論してきた内容(総合知)を踏まえると、「新知見」の方が良いのではないか。
〇　第 2, 3 章
・F-C ターゲットについては、言葉として言及しなくて良いのではないか。リスク認知と F-C ターゲットの関係について、もう少し議論を追加しておいた方が良いのではないか。

エコシステムと社会のリスク認知については、やや議論がまだ不足しているのではないか。

○　第 4 章：SMR

・SMR のイノベーションについては、エコシステムの中でどのように扱われているのか。F-C ターゲットに関する考え方は一つの考え方。インベントリが少ないということだけが強調されている気がする。

・小型だけが良いということにはならない気がする。大型軽水炉の概念もあり、日本ではまだ SMR は継続性のあるエコシステムとして成立していない。イノベーションとエコシステムは同義にはならないのではないか。

・SMR が社会に導入されるためには、技術が変わるだけではなく、社会が合意する必要がある。

○　第 4 章：再エネ・巨大噴火・コロナ

・特記事項なし

○　参考資料

・第 4 章については、特に必要ないのではないか。

○　全体

・エコシステムについては、まだ十分な議論が出来ていないのではないか。将来に関して、どのような提言とするか。例えば IRIDM などがガバナンスの問題を解決し得るという提言になるのではないか。

・4 つの事例を議論した後、統一的な議論をしてはどうか。

・第 4 章の具体的事例を「学び」として、第 5 章でエッセンスをまとめる形にしてはどうか。

・新知見とは、ある意味「理学的」なもの。これを取り入れることが出来なかったことが、1F 事故の遠因になった。日頃からイノベーションを議論していなかったことが原因ではないか。その辺が最初に記載されれば、わかりやすくなるのではないか。1F 事故前は、その点が十分でなかったことが明確になれば良いのではないか。

・イノベーションの実施、実現など表現の揺れがある。

・リスクに関する対話の枠組み作りやそれに関係する組織の構築などについては、実現するためにはかなり大変。今後の見通しを持っておいた方が良い。

４）今後の進め方について

◎　本日の議論に基づいて、改訂を進める。

◎　次回は委員長が別途メールで日程を調整する。

以上